2017
1.25
第8号

国際イベントニュース
THE INTERNATIONAL EVENTS NEWS

亀岡大郎取材班グループ
全国賃貸住宅新聞社
〒104-0061
東京都中央区銀座8-12-15
☎03-3543-6494（代表）
☎03-3543-6761（編集部）
発行人 東島淳一郎
ホームページ
http://ev-news.com

東京五輪 ビッグサイト問題
反対署名7万9000通 都へ提出

東京五輪開催に伴いビッグサイトでの展示会が開けなくなる問題を受け、一般社団法人日本展示会協会（以下、日展協）・東京都千代田区）は20日、東京都に対し業界関係者から募った7万9000通の署名を提出した。これを受け都は、メディア会場に関わるビッグサイトの使用期間を現状の約20カ月から短縮できないか、大会組織委員会と協議を進めるとしている。

都は五輪開催時に各国のメディア会場としてビッグサイト全館を使用する方針を固めており、その受け入れのために19年4月から同会場の一部を占有する計画を明らかにしている。メディア会場としての使用期間は20年11月までとされており、約20カ月間は通常の展示会が開催できなくなるなどの影響が危惧されている。

日展協はこうした事態を回避するため、展示会の主催企業や出展者、展示会の造作や警備を行う関係企業などを中心に、五輪期間中も例年と同じ規模で開催できるよう求める署名活動を行っていた。署名活動は現在も続いており、23日17時現在で8万1276通にのぼっている。

都は展示会産業への影響を軽減するため、ビッグサイト近隣に約2万3000㎡の仮設展示場の建設を行う予定だ。同展示場は19年4月から20年11月までの20カ月間運営する。

だが、仮設展示場の面積がビッグサイトの約4分の1であることから、展示会業界からの不安の声は収まっていない。関係者からはさらなる仮設展示場の建設を望む声も上がっているが、都は「現計画以上の新たな仮設展示場の建設する方針はない」としている。

▶都はビッグサイトの使用期間短縮を検討するという

地方会場 主催者誘致を強化

五輪によりビッグサイトでの展示会開催が危ぶまれる事態を見据え、地方の展示会場が主催者の誘致に力を注いでいる。

JR静岡駅近辺にある「ツインメッセ静岡」を運営している公益財団法人静岡産業振興協会（静岡市）は2月22日に、展示会の主催者を対象とした「静岡市内の展示施設地活用セミナー」を開催する。例年ビッグサイトで開催されてきた展示会を、五輪開催による影響を見込して地方へと誘致する狙いだ。

ツインメッセ静岡は2棟にわかれた展示会場を備える施設で、それぞれ約5000㎡の展示フロアがある。これまで同展示場では企業の就職イベントやBtoCイベントなどが開催されることが多かった。

昨年12月にはツインメッセ静岡近隣にあるホール施設「グランシップ」と提携し、共同で大型イベントの誘致に取り組むことを発表した。グランメッセは最大4600人を収容できる会議室を有しており、国際会議の会場として活用されることが多いという。

静岡産業振興協会の赤堀和義課長は「市の会場が協力することで、関東の主催者が利用しやすい環境を提示していきたい。施設見学会などを実施し、展示会や国際会議の誘致につなげる」と話している。

ビッグサイト問題に伴い、関東の展示会場の動きが活発化している。首都圏にある展示会場関係者によると、19～20年の展示会をビッグサイト以外の展示会で開催したいとする主催者からの相談が相次いでおり、関係者は「展示会主催者からの相談は多いが、相談数が多いので受けきれないようだ」と話す。ビッグサイト問題は周辺会場にも影響をもたらしており、今後は全国的に影響が広まると見られている。

アニメ産業を観光に

3月に開催される「アニメジャパン」に地方自治体が関心を寄せている。作品と地元をコラボさせ、観光客誘致に生かす動きが活発になっているようだ。

3面

IoT開発が活況

20日に開かれた「ウェアラブルEXPO」では、開発中のIoTセンサーなど新技術が続々登場した。

2面

シリーズ 五輪の影

経済効果を失う五輪に意味はあるのか。ビッグサイトでの展示会がなくなる問題を受け、出展者は悲痛な声をあげる。

5面

東南アジア狙う支援会社

ディスプレイ大手のムラヤマが、2017年に展示会をシンガポールで開催する。日本企業を誘致し、東南アジア進出を図る。

7面

業界団体 五輪を警戒

12日の一般社団法人日本展示会協会の新年会では、ビッグサイトをメディア会場として使用する問題について、難色を示した。

16面

日展協新年会に9080人

新年を迎え、展示業界の関係団体が相次いで賀詞交歓会を開催した。

会場は新年のお祝いムードに浮かれる間もなく、五輪開催に伴うビッグサイトの使用問題を危惧する声が強かった。

一般社団法人日本展示会協会（東京都千代田区）12日、ANAインターコンチネンタルホテル東京にて新年会を開催し、業界関係者908人が参加した。

来賓として国会議員なども多数参列し、石積忠夫会長は挨拶の中で五輪に伴うビッグサイト問題に触れ、参加した企業に協力を呼びかけた。（関連記事＝16面）

展示会場の造作業者らが集まる東京ディスプレイ協同組合（東京都中央区）は、19日に東京ドームホテルで賀詞交歓会を開催した。

協会の活性化に向けた挨拶が述べられる一方で、来賓として登壇した秋元司衆議院議員は「ビッグサイトの展示会が開催できることを期待する」と話した。

▶（上）東京ディスプレイ協同組合で登壇する秋元議員（下）日展協新年会の様子。

IR誘致で意見交換

2025年国際博覧会やIR誘致をめぐり24日、大阪府の松井一郎知事と大阪市の吉村洋文市長、関西経済団体などが意見交換会を行った。「大阪の成長」をテーマに、カジノを含む統合型リゾート施設の誘致について話し合った。

松井知事は「財界の方にも海外拠点で大阪のPRを図ってもらいたい」ほか、交通網の補地での開発や関西経済について話題。皆様届けると話した。

関西経済界の動きを損ねきだと述べ、関西経済連合会の側面も検討き」と依存症対策要因の研究きとの考えを人工島・夢洲阪府と市がをめざしている。

IRを巡り大阪府と市が

山の神に祈る場所

小田原で150年続く「鈴廣蒲鉾本店」に直結する箱根登山鉄道風祭駅は、毎年正月2日と3日の朝に、たくさんの人でごった返す。年初の風物詩となった箱根駅伝で、山の出入り口となる小田原中継所が設置されるからだ。

ランナーはあっという間に遠くへ過ぎ去っていく。集まった人たちはその一瞬に合わせて精一杯の大学や選手でも関係なく、々、死に物見せる山の年初の誓だ。

最後の選ぎると、ひそのまま電に移動する帰る人たち終えて帰宅とよく似て

トレンド

IoTセンサー開発 活況

変幻自在に曲がる、伸びる

モノをネットにつなぐIoT（インターネット・オブ・シングス）が進化を見せる。18～20日に東京ビッグサイトで開催されたIoT関連商材の展示会「ウェアラブルEXPO」では179社が出展し、ヘルスケア・フィットネス分野への応用が期待されるIoTセンサーが多数並んだ。注目を集めたのが、帝人（TEIJIN・大阪市）が開発したワイヤー式センサーだ。

厚さ約1㎜のひも状のセンサーは圧力やゆがみの方向を検知する。織物のように繊維に編み込むことで精密なデータを測ることが可能だ。

展示会では、この同センサーを織り込んだゴルフウェアを展示した。腕や背中、脚にセンサーが内蔵されており、ゴルフクラブをスウィングした体の力の入り方を可視化する。

同社の技術開発部門の山本智義チーム長は「アクセサリーのように腕や首に装着することで、健康状態を確認できる。ファッションとして楽しみながらセンサーを身に着けられるようになる」と語る。今後はヘルスケアやスポーツ分野に技術を生かすという。

また、電子回路の開発を行う日本メクトロン（東京都港区）が新たに発表したのが、伸縮性のある電子回路「3D形成FPC」だ。立体成型することで伸縮性を備えており、従来できなかった「曲げる」「折る」「引っ張る」といった動作が可能になる。

産業機器の部品に組み込んで動作の異常を検知するほか、人体に直接貼るセンサーとしての活用が見込まれている。担当者は「ヘルスケア領域での実用化に有効となる。伸縮性があるので、これまでセンサーを貼り付けられなかった動的なモノをIoT化することができるのではないか」と話している。

ウェアラブルEXPOの主催はリードエグジビションジャパン。次回は来年1月17～19日に開催する。

▲帝人の出展ブースの様子

▲ヘルスケア関連の出展が相次いだ

日本最大級「蚤の市」開催

古物・骨董品販売のトイ&コレクタブル（東京都中野区）らが主催する古物見本市「骨董ジャンボリー」が14～15日、東京ビッグサイト東1ホールで開催された。

和洋骨董品や玩具などを扱う古物商社約500社が出展し、にぎわいを見せた。

骨董ジャンボリーは古物の総合見本市で、企業・一般の双方が訪れることが特徴だ。日本だけでなく海外の店舗も出展しており、店舗内装に携わるデザイナーや小売業者など多ジャンルの来場者が集まる。

展示会実行委員は「古物は同じ商品が出回りにくく、一期一会の出会いを求めて多くの人が来場する。これだけの規模で開催している見本市はほかになく、今後もまだまだ規模は大きくなる」と魅力を話す。

▶骨董ジャンボリーには企業・一般の双方が訪れる

ガステック

世界を回るエネルギー業界の展示会と講演会

4月に日本で初開催

天然ガスとLNGの世界最大規模の展示会「Gastech（ガステック）」が、4月に日本で初開催される。出展するのはシェル、BP、エクソンモービル、トタル、シェブロンといった世界規模のエネルギー企業や、造船、プラント開発、各国のガス販売会社などだ。各社の経営陣や、プロジェクト統括者による講演や座談会も44件企画され、世界のガス事業関係者が一堂に会する。

ガステックは1972年に始まり、毎回場所を変えながら各都市で18カ月ごとに開催される。ガスの買い手となる各国の電力会社、ガス会社から人が集まり、出展企業との間で大規模な取引を行う。イベントを運営するのは英国のメディア事業社dmgグループだ。

日本の窓口となるdmgイベンツ・エナジー・ジャパン（東京都港区）の古谷充弘氏によると、日本での開催を長い間出展企業が強く要望してきたという。日本の電力・ガス会社は世界最大のガスの買い手だからだ。東日本大震災以降、購入量は一層増えている。だが、これまでは会場の確保が難しく実現しなかった。

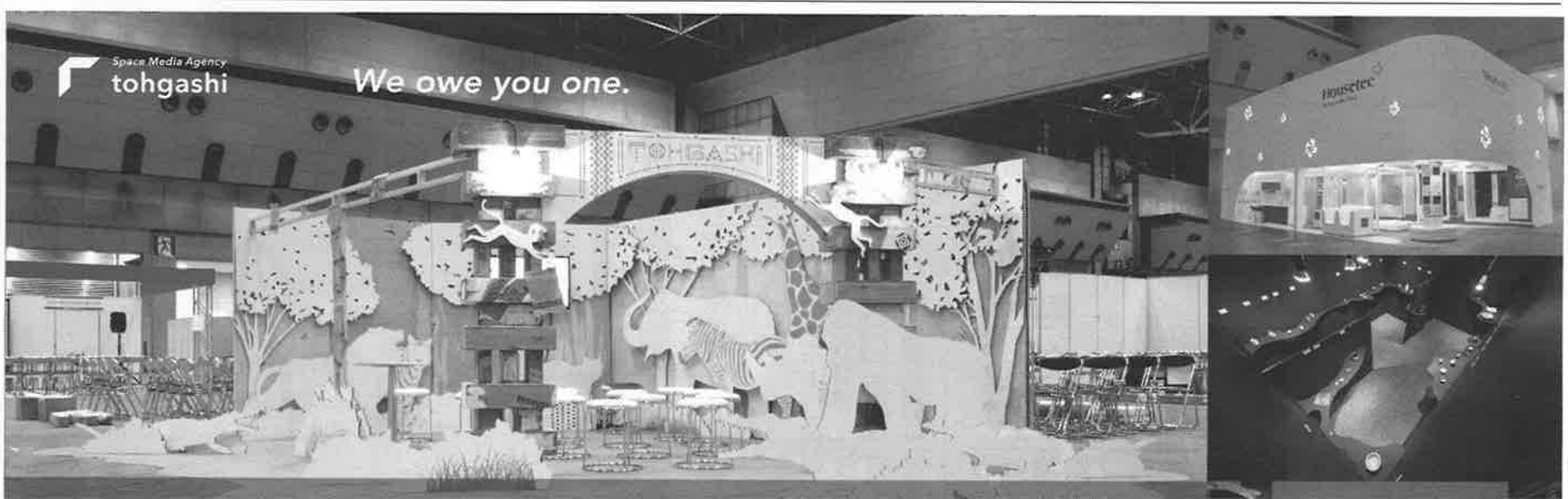
主催は東京ガスや日本の商社をはじめ、国内のエネルギー関連企業10社による共同体だ。出展者は600社を超え、4日間で世界から2万5000人が集まる見込みだ。資源供給国の大臣や政府関係者も多数来日するということだ。

dmgイベンツ・エナジー・ジャパン（東京都港区）の古谷充弘氏（52）は、日本開催のために会場の確保に奔走した

Gastech（ガステック）
会　期：4月4日（火）～7日（金）
会　場：幕張メッセ　ホール1～8
主　催：ジャパン　ガステック共同体

ネプコン 3日間で11万人

リードエグジビションジャパン（東京都新宿区）が東京ビッグサイト全館を使用して開催する「ネプコンジャパン」に、18～20日の3日間で累計11万2344人が来場した。昨年開催時から3万2425名増えた。

ネプコンジャパンはエレクトロニクス製造・実装・検査に関わる専門展で、「エレクトロテストジャパン」「半導体・センサ・パッケージング技術展」など7展の総称。同日に開催された同社主催のすべての展示会の出展社は合計で2530社にのぼった。

海外からの来場者も多い。アメリカから来場した電子機器開発メーカーの技術者は「これほど大規模な技術展は世界的に見ても少ない。日本の先端技術に触れられる展示会として、毎年参加している」と感想を述べた。